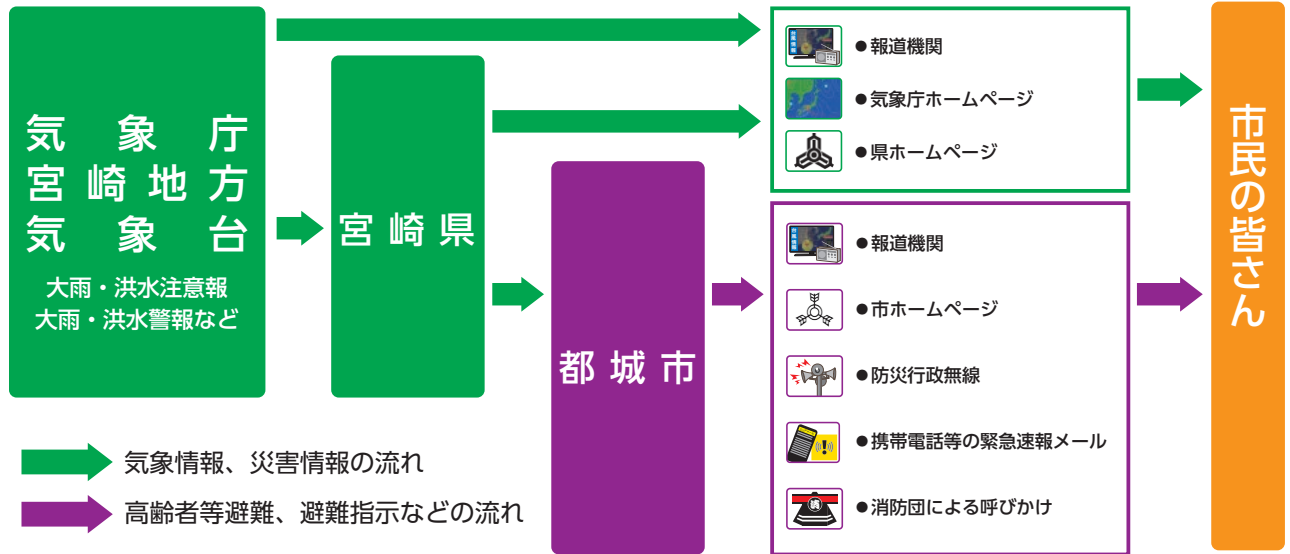


# 防災情報の伝達と入手

## 防災情報の伝達

気象に関する注意報や警報が発表されたら、市からの情報に注意してください。



## 防災情報の入手

### 気象 の情報

- 気象情報・注意報
- 台風・洪水・土砂災害などの防災気象情報



■宮崎地方気象台ホームページ  
<https://www.jma-net.go.jp/miyazaki/>  
宮崎地方気象台

### 土砂災害 の情報

- 土砂災害危険度情報



■宮崎県砂防総合情報ポータルサイト  
<https://dosya.pref.miyazaki.lg.jp>  
宮崎県 土砂災害

### 都城市 の情報

- 各種防災情報



■都城市防災関連ホームページ  
<https://www.city.miyakonojo.miyazaki.jp/life/1/10/>  
都城市 防災情報

### ■火山・ため池のハザードマップ

火山及びため池のより詳しいハザード情報については下記に公開しています。合わせて必ずご確認ください。

霧島山火山防災マップ <https://www.city.miyakonojo.miyazaki.jp/soshiki/1/8915.html>

ため池ハザードマップ <https://www.city.miyakonojo.miyazaki.jp/soshiki/76/33969.html>

### テレビ ラジオ

テレビのニュースや天気予報だけでなく、データ放送では、気象情報や防災情報について常時放送されています。またNHK防災アプリやラジオアプリradiko等でも情報を得ることができます。



NHK 防災アプリ



radiko



### 水位 の情報

- 雨量情報
- 水位情報
- ダム情報
- 洪水予報
- 水防警報



■国土交通省「川の防災情報」  
<https://www.river.go.jp/portal/?region=80&contents=multi>  
川の防災情報



■宮崎県の雨量・河川水位観測情報  
<http://kasen.pref.miyazaki.jp/index.html>  
宮崎河川情報システム

# 防災対策 & チェック

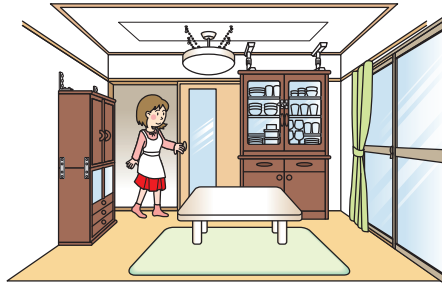
事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

## 家の中の安全対策

**家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる**  
部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。

**安全に避難するため、出入口や通路にもものを置かない**  
玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

**家具の転倒を防ぐ**  
家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。

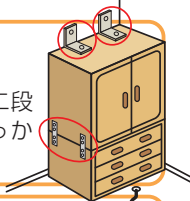


**寝室、子どもや高齢者のいる部屋には家具を置かない**  
就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。

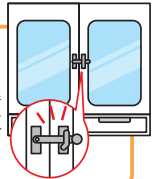


## 家具の転倒、落下を防ぐポイント

**タンス・本棚**  
L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



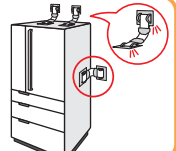
**食器棚**  
L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



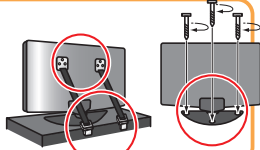
**照明**  
チェーンと金具を使って数か所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



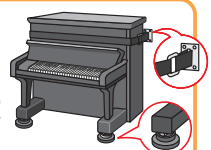
**冷蔵庫**  
所定の取り付け場所(運搬用取っ手など)を転倒防止ベルトで壁や柱に固定する。



**テレビ**  
できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。



**ピアノ**  
本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



## 家の周囲の安全対策

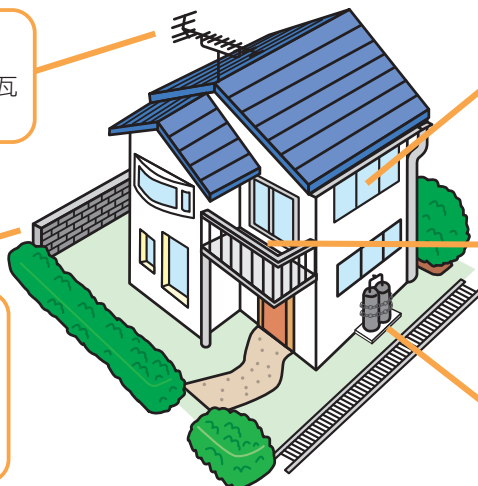
**屋根**  
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

**窓ガラス**  
飛散防止フィルムをはる。

**ブロック塀・門柱**  
土中にしっかりとした基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

**ベランダ**  
植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

**プロパンガス**  
ボンベを鎖で固定しておく。



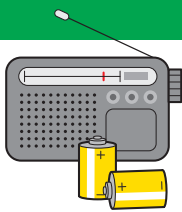
# 非常時持ち出し品の準備&チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。  
事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

## 非常時持ち出し品(例)

### 携帯ラジオ

- ラジオ
- 電池



### 救急医療品

- 常備薬
- 傷薬
- 風邪薬
- 鎮痛剤
- 絆創膏
- 包帯
- 胃腸薬
- マスク
- 消毒液



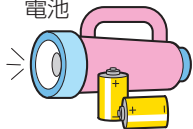
### 貴重品

- 現金
- 印鑑
- 健康保険証
- 預金通帳
- 免許証
- マイナンバーカード



### 懐中電灯

- 懐中電灯  
(できれば一人にひとつ)
- 電池



### 食料品等

火を通さなくて食べられるもの、食器など

- 食料品
- 紙皿
- 缶詰
- ミネラルウォーター
- 紙コップ



### その他

- 衣類(下着・上着など)
- 生理用品
- ウェットティッシュ
- 敷物(アルミマット)
- ラップフィルム  
(止血や食器にかぶせて使う)
- 防災マップ(本書)
- ペット用品
- 離乳食
- スリッパ
- 雨具
- ライター
- タオル
- 粉ミルク
- 紙おむつ
- モバイルバッテリー
- タオルケット



## 非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの最低3日間程度を生活できるように準備しましょう。

### 飲料水

- 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)
- 貯水した防災タンクなど



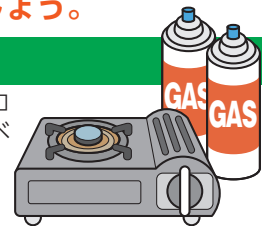
### 非常食品

- お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料など
- ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)



### 燃料

- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料



### その他

- 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- バケツ・各種アウトドア用品など



## ローリングストックについて

備蓄専用の保存食なども大切ですが、普段から少し多めに食料品や日用品を買っておき、使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の備蓄を自宅に確保しておくことをローリングストックと言います。

日常生活の中に、非常備蓄を上手に組み込みましょう。

—対象品目の例—

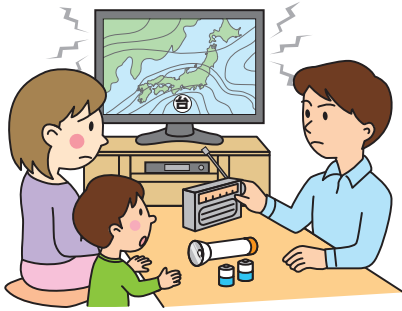
ペットボトルの水や飲み物、レトルト食品、インスタント食品、お菓子、乾麺、缶詰、乾物、漬物、カセットコンロのボンベ、ウェットティッシュ、トイレットペーパー、食品用ラップ、ビニール袋、乾電池、使い捨てカイロ



# 風水害・台風

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。  
普段から気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

## 大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策



まずは、確実な情報が大事  
その次に迅速な対応

### 大雨注意報

大雨による土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想されるときに発表

### 大雨警報

大雨による重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想されるときに発表

### 大雨特別警報

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想されるときに発表

■記録的短時間大雨情報とは・・・数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測したり、解析したりしたときに、各地の气象台が発表します。宮崎県区域の発表基準は、1時間雨量120mmとなっています。

## 雨の強さと降り方

時間雨量(mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感がある恐怖を感じる

## 台風の大きさと強さ

台風は、毎年のように日本に襲来し、きわめて大きな災害をもたらすことがあります。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/秒以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上～800km未満	強い	33m/秒以上～44m/秒未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/秒以上～54m/秒未満
		猛烈な	54m/秒以上

## 集中豪雨

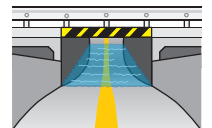
集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。発生の予測は困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 市や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持ち出し品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、注意しておきましょう！

### 地下道(アンダーパス)にも注意！

アンダーパスとは、道路や鉄道など立体交差する場合、その下を通る地下道をいいます。大雨・洪水などにより、アンダーパスの道路は真っ先に浸水してしまいます。普通自動車の場合、約30cmの浸水で走行困難になりますので注意が必要です。





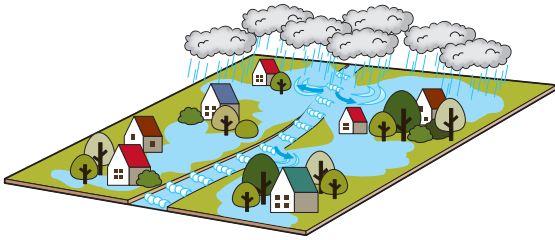
# 洪水・浸水害

## 氾濫

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

### 外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越えたりあるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれて起きる現象です。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要です。



### 内水氾濫

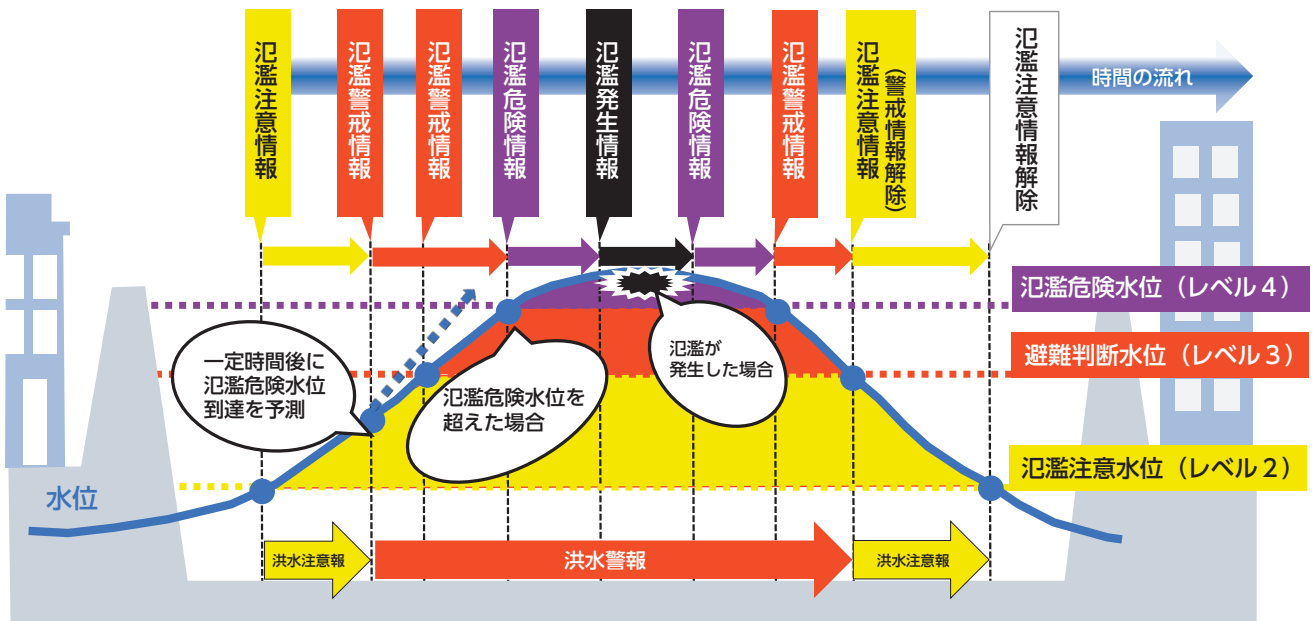
その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まって起きる現象です。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要です。



洪水・浸水害

## 河川の危険水位と洪水予想

河川ごとに設定された以下の危険水位に応じ、河川管理者と気象庁から洪水予報が発表されます。自治体はこの情報を目安にして、避難に関する情報を発令します。



河川名	大淀川	沖水川	丸谷川	高崎川	東岳川	萩原川
観測所	岳下 (国)	沖水橋	向洲橋	高崎橋	大井出橋	栄源寺橋
氾濫危険水位 (レベル4水位)	4.80	4.40	3.60	1.20	2.50	2.50
避難判断水位 (レベル3水位)	4.10	4.10	3.30	0.90	2.30	1.70
氾濫注意水位 (レベル2水位)	3.70	3.20	3.30	0.90	2.30	1.70
水防団待機水位	3.20	2.50	2.20	0.10	2.00	0.20

(単位：m)

# 土砂災害

大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

## 土砂災害警戒情報(警戒レベル4相当)とは

「土砂災害警戒情報」は、大雨警報(土砂災害)の発表後、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報です。

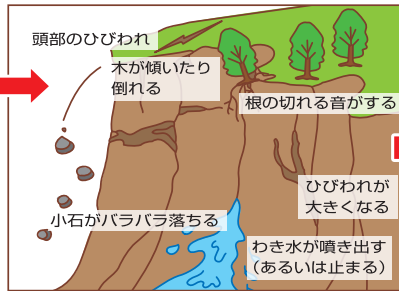
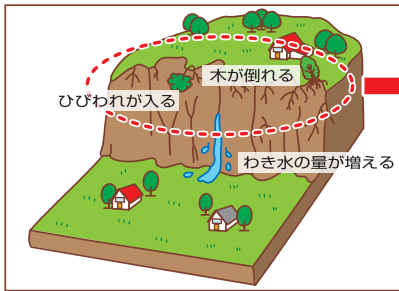
## 土砂災害の種類と前兆現象

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、普段と異なる状況「土砂災害の前兆」に気づいた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難しましょう。

また、日ごろから危険箇所や避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。

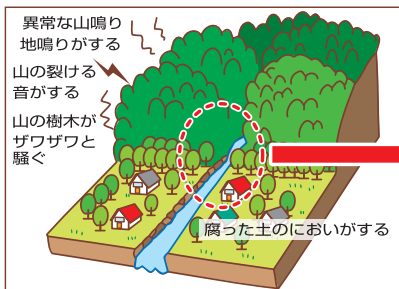
### がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



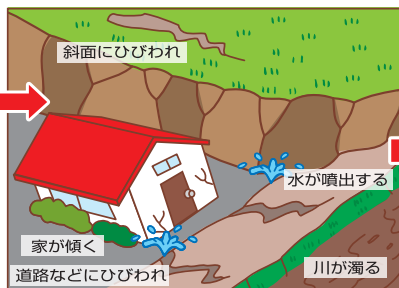
### 土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



### 地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は、一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。普段と違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

## 地震発生時の時間経過別行動マニュアル

### 地震発生

1~2分

#### 最初の大きな揺れは約1分間

- ◆まず、身を守る安全確保 手近な座布団などで頭を保護
- ◆すばやく火を消す
- ◆大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する



#### 揺れがおさまったら

- ◆火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- ◆家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- ◆靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- ◆避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等に注意



#### みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

##### 隣近所に声をかけよう

- ◆避難行動要支援者の安全確保 隣近所で助け合う
- ◆行方不明者はいないか ◆ケガ人はいないか

##### 出火防止 初期消火

- ◆初期消火 消火器を使う バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
- ◆漏電・ガス漏れに注意 ◆電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める ◆余震に注意

3分

5分

#### 正しい情報を得る

- ◆救出・救護を
- ◆市や防災機関、自主防災組織の情報を確認
- ◆デマにまどわされないように ◆電話は緊急連絡を優先する



10分

数時間

3日

#### 協力して消火活動、救出・救護活動

- ◆水、食料は蓄えているものでまかなう 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- ◆災害・被害情報の収集 ◆壊れた家に入らない

## 屋内にいた場合

### ◆家中

- ◆揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- ◆すばやく火を消す(ブレーカーやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- ◆高齢者等の避難行動要支援者の安全を確保する。
- ◆裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

### ◆集合住宅

- ◆ドアや窓を開けて避難口を確保する。避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

### ◆商業施設・劇場・ホール

- ◆カバンなどで頭を保護しショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。
- ◆カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。
- ◆あわてずに冷静な行動をとる。

### ◆エレベーター

- ◆行き先階ボタンをすべて押し、最寄り階に止まるようにする。
- ◆インターホンなどで外部へ連絡する。
- ◆非常灯や防災用品を探して、長時間の閉じ込めに備える。
- ◆無理せず体力を温存しながら、救助を待つ。

## 屋外にいた場合

### ◆路上

- ◆その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などから離れる。
- ◆落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地などに避難する。
- ◆近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ◆ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- ◆倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

### ◆車を運転中

- ◆ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- ◆揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- ◆避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

### ◆海岸付近

- ◆高台や津波避難タワーへ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

### ◆電車などの車内

- ◆つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- ◆途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- ◆乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



# 火災

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

## 初期消火の3原則

### 1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

### 2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近なものを活用する。

### 火元別初期消火のコツ

#### 油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

#### 風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火を。

#### ストーブ

消火器は直接火元に向けて噴射する。石油ストーブの場合は粉末消火器で。消火器がない場合は、水にぬらした毛布などを手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。

#### 電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を。

#### 衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

#### カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。



### 3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。



## 消火器の使い方

### 粉末・強化液消火器の場合



安全ピンに指をかける上に引き抜く。



ホースをはずして火元に向ける。



レバーを強く握って噴射する。

### 消火器のかまえ方



- 風上に回り風上から消す。炎にはまともに正対しないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。

# 火災予防が一番!!

## 住宅用火災警報器の設置義務化

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

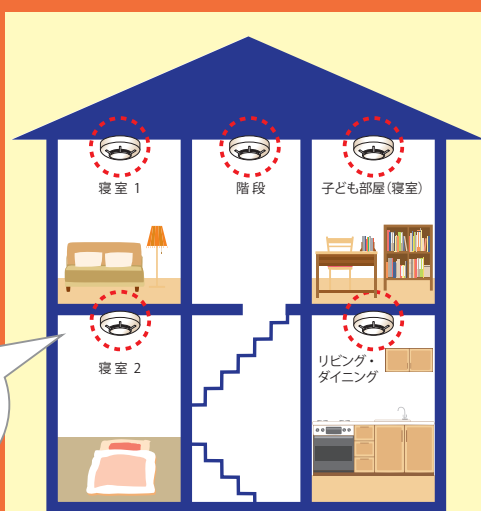
火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

### 火災警報器の設置場所

- 寝室…すべての寝室(子供部屋や高齢者の居室など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台所…台所への設置もおすすめします。



警報器



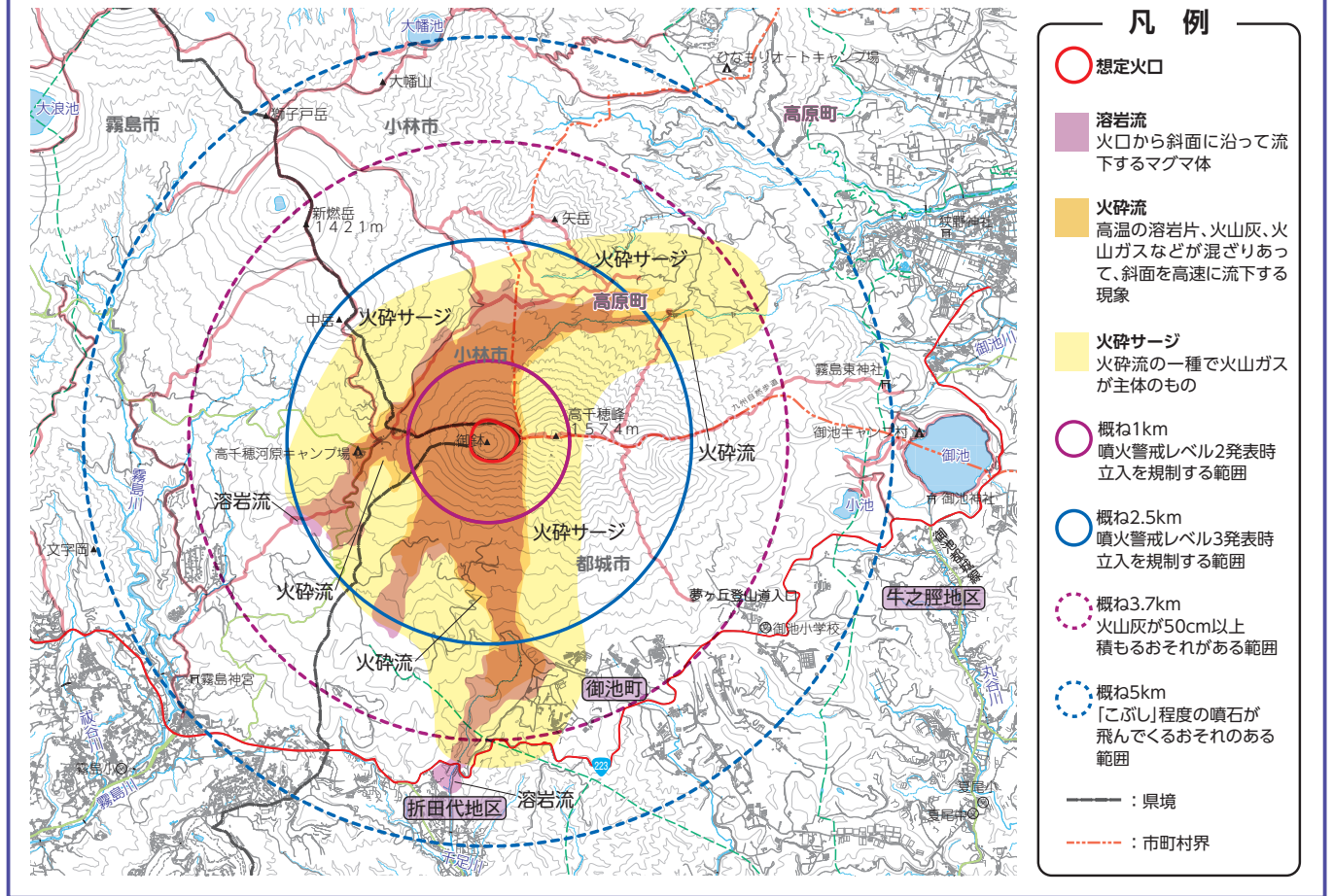
住宅内取付位置図

※定期的に動作確認をしましょう!



# 火山

## 御鉢周辺



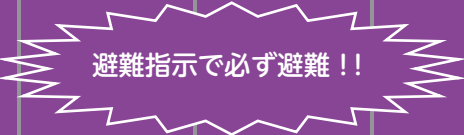
## 噴火警戒レベル

種別	名称	対象範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況	いざというときの心得
特別 警報	噴火警報 (居住地域) 又は 噴火警報	居住地域及び それより火口側	レベル 5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態と予想される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自治体からの高齢者等避難・避難指示に従いましょう。</li> <li>●電気・ガスの元栓を確認しましょう。</li> <li>●お年寄りや病人など、手助けが必要な方々の避難を助けましょう。</li> <li>●慌てずに落ち着いて行動しましょう。</li> <li>●貴重品や常備薬等を忘れずに、戸締まりをして避難場所に向かいましょう。</li> <li>●落ち着いたら親戚や知人へ避難した場所などを伝えましょう。</li> </ul>
			レベル 4 (高齢者等避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生する可能性が高まってきていると予想される。	
警報	噴火警報 (火口周辺) 又は 火口周辺警報	火口から居住地域 近くまでの広い 範囲の火口周辺	レベル 3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テレビやラジオ、防災無線などを聞いて、正しい情報を得ましょう。</li> <li>●デマには惑わされないようにしましょう。</li> <li>●避難のための準備を進めましょう。</li> <li>●空振や小さな噴石に注意しましょう。</li> </ul>
		火口から 少し離れた所まで の火口周辺	レベル 2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	
予報	噴火予報	火口内等	レベル 1 (活火山である ことに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●霧島山の噴火の歴史や噴火の特徴について知っておきましょう。</li> <li>●家族で避難場所や避難経路について、話し合っておきましょう。</li> <li>●事前に、避難時に危険な箇所を把握しておきましょう。</li> <li>●非常持ち出し品の準備をしておきましょう。</li> </ul>

# 避難情報

## 避難情報と警戒レベル

警戒レベルは、水害や土砂災害に備えて住民がとるべき行動をお知らせするために5段階にレベル分けしたもので、市区町村が避難情報と合わせて出す情報です。

避難情報等 (警戒レベル)				警報・注意報 (警戒レベル相当情報)	
警戒レベル	状況	住民が取るべき行動	行動を促す情報	浸水の情報	土砂災害の情報(雨)
5	災害発生 又は切迫	<b>命の危険 直ちに安全確保!</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状態です。</li> <li>警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはけません!</li> </ul>	緊急安全確保	氾濫発生情報 大雨特別警報 (浸水害)	大雨特別警報 (土砂災害)
4	災害の おそれ高い	<b>危険な場所から 全員避難</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>警戒レベル4避難指示は、立退き避難に必要な時間や日没時間等を考慮して発令される情報で、このタイミングで危険な場所から避難する必要があります。</li> </ul>	避難指示	氾濫危険情報	土砂災害 警戒情報
					
3	災害の おそれあり	<b>危険な場所から 高齢者等は避難</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>「高齢者等」は障がいのある人や避難を支援する人も含んでいます。</li> <li>さらに高齢者等以外の人にも必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングです。</li> </ul>	高齢者等避難	氾濫警戒情報 大雨警報 (浸水害) 洪水警報	大雨警報 (土砂災害)
2	気象状況 悪化	自らの 避難行動を確認	—	氾濫注意情報	大雨洪水注意報
1	今後気象状況 悪化のおそれ	災害への 心構えを高める	—	—	早期注意情報

※警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

# 避難行動判定フロー

○避難所に避難することだけが避難ではありません

「避難」とは、「難」を「避」けることであり、**自宅での安全確保が可能な人は、避難所に行く必要はありません**。自宅での安全確保が可能な場合には、自宅での避難の検討や、自宅が危険と考えられる場合でも、近くの安全な親戚や知人宅などに避難することも避難方法のひとつです。



**「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。**

## 避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？ **必ず取組みましょう**

ハザードマップ\*で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

※ハザードマップは土砂災害や浸水が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて崖のそばや低い土地などにお住まいの方は、市からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、原則として、自宅の外に避難が必要です。

例外

- 土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。
- 浸水の危険があっても、
  - ①洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれの高い区域の外側である。
  - ②浸水する深さよりも高いところにいる。
  - ③浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食糧などの備えが十分にある場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

いいえ

警戒レベル**3**が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう。(日頃から相談しておきましょう)

警戒レベル**3**が出たら、市が指定している**指定避難所に避難**しましょう。

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

いいえ

警戒レベル**4**が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう。(日頃から相談しておきましょう)

警戒レベル**4**が出たら、市が指定している**指定避難所に避難**しましょう。



# わが家のマイ・タイムライン

台風や大雨などは事前に進路や規模が予測できることから、接近時の計画をたてておくことで適切な避難行動に繋げることが出来ます。家族の避難行動計画をたてましょう。

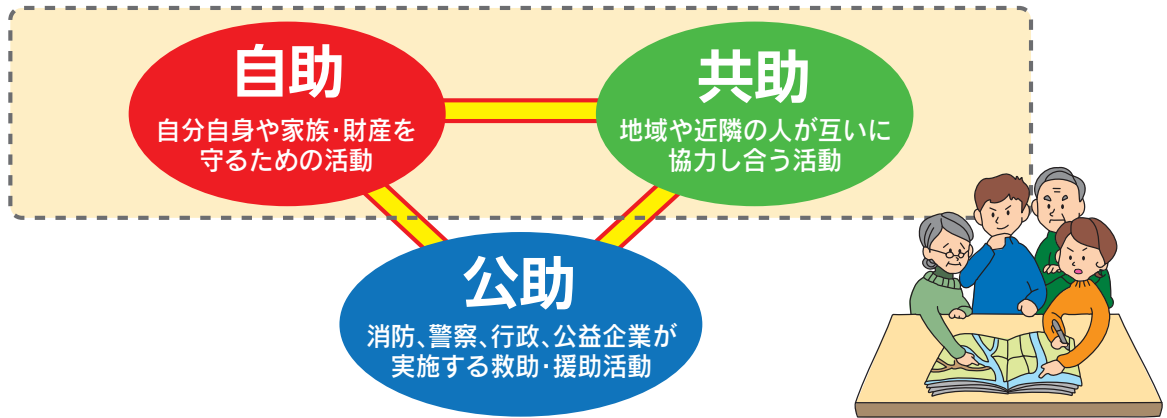
<p>悪 今 化 後 の 気 象 お お 象 そ 状 れ 況</p>	<p>気象・避難情報</p> <p>警戒レベル1</p> <p>早期注意情報</p>	<p>避難準備・確認</p> <p>災害への心構えを高める 警戒レベル1</p> <p>都城市総合防災マップで、お住まいの地域の避難所や危険箇所を除いた安全なルートを確認しましょう。</p> <p>自宅周辺の浸水深：        m～        m未満</p> <p>自宅の土砂災害判定：       </p>	<p>家族のタイムライン (あなたと家族の行動は?)</p> <p>記入例) ・家族内で予め備蓄品を購入 ・非常時持ち出し品のチェック ・家族全員の集合場所を決め、安全な避難ルートを策定</p>
<p>気 象 状 況 悪 化</p>	<p>警戒レベル2</p> <p>大雨・洪水注意報</p> <p>氾濫注意情報</p>	<p>自らの避難行動を確認 警戒レベル2</p> <p>避難する場所への確認や持ち出し品チェックリストを参考にいつでも避難できる態勢を整えましょう。</p> <p>避難先①：       </p> <p>避難先②：       </p> <p>避難先③：       </p> <p>避難方法：       </p> <p>避難に要する時間：        分</p>	<p>(あなたと家族の行動は?)</p> <p>記入例) ・災害情報を把握し避難を行うかの判断 ・風水害に備えて家の施錠や窓に養生テープを張る ・自家用車等の対策</p>
<p>災 害 の お そ れ あ り</p>	<p>警戒レベル3</p> <p>高齢者等避難</p> <p>氾濫警戒情報・洪水警報</p> <p>大雨警報</p>	<p>危険な場所から高齢者等は避難 警戒レベル3</p> <p>「高齢者等」は、ご高齢の方・障がいのある方・妊娠中の方や小さなお子さま連れの方など避難に時間を要する方も含まれます。 高齢者等以外の方も必要に応じ、避難準備をしたり、自主的に避難するタイミングです。</p>	<p>(あなたと家族の行動は?)</p> <p>記入例) ・避難を開始 ・安全なルートで避難場所に移動</p>
<p>災 害 の お そ れ 高 い</p>	<p>警戒レベル4</p> <p>避難指示</p> <p>氾濫危険情報</p> <p>土砂災害警戒情報</p>	<p>危険な場所から全員避難 警戒レベル4</p> <p>市のHPや防災無線を確認するなど、災害情報の収集や避難情報の発令など情報を確認しましょう。</p> <p><b>避難指示で必ず避難 !!</b></p>	<p>(あなたと家族の行動は?)</p> <p>記入例) ・避難所内で持ってきた食料品で過ごす ・落ち着いたら親戚等に連絡する</p>
<p>災 害 発 生 ま た は 迫</p>	<p>警戒レベル5</p> <p>緊急安全確保</p> <p>氾濫発生情報</p> <p>大雨特別警報</p>	<p>命の危険 直ちに安全確保！ 警戒レベル5</p> <p>すでに重大な災害が発生している状況です。避難が完了していない場合は、命を守る行動をとりましょう。</p>	<p>●自分の状況を家族や親戚等に連絡しましょう。</p>



# 地域の防災力

災害発生時には、自助・共助・公助の連携により人的・物的被害を軽減することができます。

ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関が行う活動(公助)は交通網の寸断や同時多発火災などにより十分対応できない可能性があるため、個人の力で災害に備える(自助)とともに、地域での助け合い(共助)による地域の防災力が重要となります。



## 自主防災組織

### 1. 自主防災組織とは？

- 災害発生時はもちろん、日頃から地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」と言います。
- 平常時には防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出救護、集団避難、避難所への給食給水などの活動を行います。



### 2. なぜ、自主防災組織が必要な？

- 大規模な災害が発生した場合、消防署などの防災機関だけでは、十分な対応ができない可能性があります。  
このような時、地域の皆さんと一緒に協力し、災害や避難に関する情報の伝達、避難誘導、安否確認、救出・救護活動に取り組むことで被害の軽減を図る事ができます。また、活動を迅速に進めるためには「お互いに顔の見える関係」の中で、事前に地域内で役割分担を決めておくことが有効です。  
より効率よく、さまざまな活動をするためにも事前の準備(=体制づくり)が重要です。

○各班の日頃(平常時)と緊急時(災害発生時)の活動内容は概ね次のような役割になります。(例)

	情報班	消火班	避難誘導班	救出救護班	給食・給水班
平常時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○住民に対しての連絡体制、手段の検討</li> <li>○情報収集・伝達訓練の実施</li> <li>○防災意識の啓発、高揚に関する広報</li> <li>○公的防災機関との連携確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初期消火訓練の実施</li> <li>○消火用水の確保、確認</li> <li>○出火防止の啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事前に避難路、避難場所を把握</li> <li>○避難誘導訓練の実施</li> <li>○避難路の安全点検</li> <li>※危険箇所(かけ、ブロック塀)などの確認等</li> <li>○要配慮者の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○応急手当、衛生知識の普及</li> <li>○救命講習への参加</li> <li>○応急医薬品、救助資機材の確保、点検</li> <li>○技能、ノウハウを持った住民の把握</li> <li>○救助用資機材の点検・確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食料、飲料水の個人備蓄についての普及啓発</li> <li>○炊き出し訓練の実施</li> <li>○炊き出し用資機材の確保、点検</li> </ul>
緊急時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○災害情報を住民に対して正確かつ迅速に伝達</li> <li>○地域内の被害情報を収集し、本部へ報告</li> <li>○混乱回避、出火防止等の広報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初期消火活動</li> <li>※消防署、消防団の到着までの延焼拡大を防ぐのが基本ですので無理はしないこと!!</li> <li>○情報班と連携しての出火防止等の広報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報班と連携しての避難の呼びかけ</li> <li>○安全な経路を選択しての避難誘導</li> <li>○要配慮者の避難支援</li> <li>○避難地での安否確認</li> <li>○安否確認による救出救護班への情報伝達</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難誘導班と連携しての速やかな救出</li> <li>※救出活動は危険を伴う場合があるため、二次災害に十分注意して下さい。</li> <li>○負傷者の搬送、応急手当の救護</li> <li>○避難所・救護所での救護活動への協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食料や水、救援物資等の受入、配布</li> <li>○必要に応じて炊き出し</li> </ul>